





聖書の言葉

平和を実現する人たちは  
幸いである。  
その人たちは  
神の子と呼ばれる。  
マタイによる福音書5章9節

# シャロームタイムズ

2021年8月15日（日）発行

宗教法人

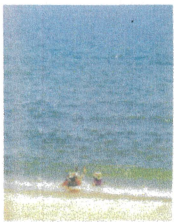
野毛山キリストの教会

〒220-0032 横浜市内西区老松町30番地



## PEACETIMES

### 平和へ



平和についての絵本というと、戦争の惨禍を示して、戦争していない状態が平和となりがちですが、この「平和へ」という本では、様々な子どもたちの写真を掲げ、平和とはどういう状態かを語っています。20年以上前に出版された本で、翻訳をされたのは、レイチェルカーソンの本

(著書センス・オブ・ワンダー、沈黙の春などを翻訳された上遠 恵子先生(田園調布教会の教会員)です。20年以上前に書かれた本は未だ変わらずに、大切なことを教えてくれています。今また読み直し、私たち一人ひとりができることを考え、それぞれが小さな「平和の使者」…ピースメーカーになりたいと思います。

「平和へ」より

作 キャサリン・スコールズ  
訳 上遠 恵子  
写真 田沼武能

- ①平和って？  
さわられるものではないけれど、あたたかく、やさしい、とても力強いもの。  
平和はどうしたら見つけれられるだろう？  
どうしたら、ずっと平和でいられるだろう？
- ②平和って、生きていくのに必要なものがちゃんとあること。食べ物、水、家、着るもの、病気やけがをしたとき、助けてくれるものがあること。
- ③それから、子どもたちが学校へ行って安心して勉強ができる平和もあるし、友だちや家族から愛されていると感じていられる平和もある。
- ④わたしたちは、みんなちがう考えの持ち主。生きている時代や、くらしによっても、ほしいものの種類はちがうし、人や国によっても、ほしいものはちがう。  
平和はそれぞれのちがいを認めるということ・・・
- ⑤もし、ほとんど違いがなくて、同じような人間ばかりだったら… みんなが同じことをしたくてそれが一つしかなかったら…  
待っても待ってもそれができなかつたら…  
なかなか優しい気持ちにはなれない時がある
- ⑥だから、だれとも一緒にいないで、自分ひとりの人もいる。けれども、いつも、ひとりであることは、どんなに強い人でも、さびしくて、つらいもの…ひとりぼっちだと、本当の平和な気持ちにはなれない。
- ⑦みんながほしいものをとりあつたら？  
言い争いやけんかになり、どちらかが勝って、どちらかが負けるまで、そんな争いが続くかもしれない。そんなことが起きたら平和はおしまい  
けれども、全然違う道もある「話し合い」という道。お互い話を聞いて、けんかをしないで、解決するように努力すればほしいものを少しは手に入れられるかもしれない…
- ⑧このけんかとは全く関係のない人が間に入るという道もある。その人なら、両方の言い分を聞き、平和に暮らす方法を考えてあげられる。あなたとわたし、意見が違うことはいいこと。そのことで新しい方法や新しいことを見つけれられるかもしれない…
- ⑨それでも3番目の道が見つからなかったら…？  
そんなとき、前に進むことばかりを考えないで、ほんの少し、後ろにさがって、道を譲ったら、うまくすれ違えるかもしれない。  
いろいろな場で同じようなことは起こっているでしょう。その時、わたしたちが、道をゆずってみたら、いつのまにか、他の人も変わ

⑩国と国との間でも、同じようなことが起きている。けれども、この問題はなかなか簡単にはいかない。道の選び方によって「戦争」という恐ろしいことになってしまう。この時も、ちょっと立ち止まって、話し合い、ゆずりあいをするれば、平和は守れるはず…  
どちらかの国が、平和へのはじめの一步を踏み出すとしたら、この勇気ある一步は、とても重みがある。

⑪平和へのはじめの一步をふみだすことは武器を使う戦争よりも難しい。勇気があって、平和でありたいという強い願いがなければならぬ。これまでの考えを変える決心をすることは、とても大変なことだけど、とても価値のあること。平和は、すべての人にとって、何よりも大切なものだから…

⑫残念なことに、世界には、自分の国だけ、自分の仲間だけの平和を求めている人たちもいる。自分たちだけの、気持ちのよいくらしの中に閉じこもり、他の人の苦しみなど、見向きもしない人がいる。

⑬いつの時代にも、「平和の使者」と呼ばれる人たちがいる。  
「平和の使者」は、いつもうなずいてばかりいるのではない。時には、大きな声で「NO!」ということもある。  
なぜなら、「平和の使者」は間違ったこと、不公平なことに対して、はっきりと、それは正しくないと言言すべきだから。

⑭わたしたちのまわりの世界は、くらし方も考え方も変わり続けている

⑮生き物たちは、この地球を覆う大きな生命の網の大切な網目のひとつひとつ。  
人間も獣も、鳥も虫も、木も草も、みんな支え合いながら、関わっている。  
だから、人間もわがままはやめて地球上のすべてのものと  
平和になかよくくらすなくてはいけない。

⑯たくさんのほしいものの中で一番大切なのは 「心の中」の平和

⑰平和は、私たちの中に生きていて、大きく成長していくもの。  
わたしたちは、それを大切に、じょうぶな木のように育てていこう…

⑱平和を育てていく人になるには世界で起きていること、いろいろな暮らし方、考え方があつてを知り私たちが自身がしっかりとすること。自分が考えること、信じること、感じることに、自信と責任を持つこと。  
そうすれば、自分とちがう考えの人の話も、よく聞けるようになるし、別の立場からみられるようになる。  
それは、おとも子どもも同じこと。  
そして、いつも平和であろうと心がけること。

平和は、私たちの足元から  
わたしたちと共に、歩みはじめる

